



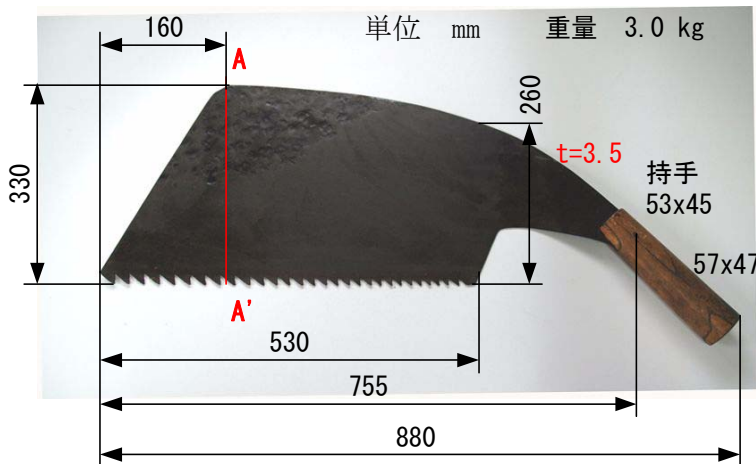
衣川 正介

## 『オガ（大鋸）を貰った』

2010年4月2日、日頃お世話になっている火縄銃の研究家、峯田元治（上尾市在住）とその友人3名が『鉄のふしぎ博物館』を見学。それに先だつて桜の姫路城と明珍火箸を見学されました。私はお城の案内人を勤め、兵庫県立博物館での火縄銃と村田銃の調査にも同席させて頂きました。

ご友人の一人、岡崎様（京都市在住）から、丁寧なお礼状と共にオガ（大鋸）が送られて来ました。全長90cmほどの立派な品物です。刻印も見えます[いかり屋]かな？電話でお聞きすると、明治時代の前半に滋賀県の水口（みなくち）町＝現、甲賀市で作られたオガで[東郷はがね]を使用、硬い材木の製材用に使われたものとの事です。

夕食の席でオガ（大鋸）が手に入るなら、欲しいです。と私がしゃべったことを覚えておられたのです。ノコギリは古墳時代から使われ初め、現存するノコギリ痕が確認出来る建物は法隆寺（7世紀）です。しかし、オガのように木材を縦に挽くことが始まったのはもっと遅く、室町時代と考えられています。滋賀県の白山神社拝殿に掲げられた板額の裏板（1436年）に縦挽のノコギリ痕がある。頂いたオガの寸法を測って、昔の職人の知恵と工夫に感心しました。A-A'の断面が上から1.5mm（叩き目部）→2.0mm→2.5mm→3.5mm（アサリ部）と使いやすいように形状が変化しています。又、最大厚みは取付部の近くで3.5mm、鉄板素材の厚みは1分板（1/8" = 25.4/8）=3.17mmと考えられます。



[東郷はがね]

「洋鋼問屋 河合佐兵衛」が販売した鋼材。日清戦争（1894～1895年）後、洋鋼を全国的に普及していった新しい型の商人、河合佐兵衛は、これまでにない新しい商法を示し、河合商店の名と洋鋼の名を全国の鉄問屋、金物屋、鍛冶屋に知らしめるべくさまざまな手法を駆使しました。商標、商品名、洋鋼の使用法、熱処理方法を印刷したカラフルな「ラベル」を用途別にハガネに貼った。その商標は海軍大将東郷平八郎の姿で登録しています。（明治39年＝1906年）

参考ホームページ <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/hp/hp835.htm>

参考図書 道具古事記 前 久夫 東京美術選書 1983年

**「鉄のふしぎ博物館」開館**  
**来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感**

**鉄を見る目がかかりますよ。**  
**ぜひお越しください。**

強力なネオジム磁石

石ころ

見学にはご予約が必要です。申込書をメール又は FAX でお願ひします。様式は以下にあります。

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/museum/hushigi.doc>

4月号に誤り、『ビタ銭一文』裏に波目の模様がある寛永通宝は一文銭ではなく四文銭でした。私の思い込みでご迷惑をおかけしました。又、調査の必要な箇所を発見、この事については今後記載の予定です。